

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの力を最大限に伸ばす様々な教育活動を推進することで、多文化共生社会を担うグローバル人材を育成する

- 1 自ら学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて自主的に学ぶ姿勢を強固にし、進路を切り拓く確かな学力を身につける。
- 2 豊かな人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、豊かな人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバル人材を育成する。

2 中期的目標

生徒一人ひとりの力を最大限に伸ばす様々な教育活動を推進することで、多文化共生社会を担うグローバル人材を育成する

1. 自ら学ぶ力をつける

- (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ進路を切り拓く確かな学力を身につけるために、授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を推進すると共に、授業アンケートを効果的に活用し全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価 80%を維持する。

- (2) 担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に学校あげて取り組む。
- (3) 3年間を見通した学習指導計画、進路指導計画を確立し、生徒の学習意欲、進路意欲の向上を図り、生徒の第一希望の進路実現に繋げる。
- (4) 1年次当初に宿泊研修（勉強合宿）を行い、集団生活を通して高校生活スタート時点において三島高校での学習方法や学校生活の過ごし方等を身につける一助とする。
- (5) 基礎的学力を強化し学力向上に資する 平成 30 年度から導入する朝学（総合基礎）の充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努め、学力向上に資する。また、1学期終了段階で各教科での振り返りを行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- (6) 大学入試改革の情報を的確に把握して進路指導を充実させると共に、生徒・保護者への情報提供と意識の啓発を図る。
- (7) 放課後講習の組織化と拡大
放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。
- (8) 長期休業期間講習の実施
- (9) 国公立大学とりわけ難関国公立大学への現役合格者数を増やし、生徒の進路希望に応える。
- (10) ICT 機器であるタブレット型端末等を有効に活用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力向上に資する。

※ 難関国公立大学（京都・大阪・神戸・大阪市立・大阪府立）現役合格者数 20 名、国公立大学現役合格者数 70 名以上の合格を目標とする。

※ センター試験受験者数を在籍者数の 80%以上とし、2020 年度には国立型受験者数をセンター試験受験者の 50%以上とする。

2. 豊かな人間力をつける

- (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
- (2) 自らを律し、他者を思いやり、公共のマナーやルールを守るなど、規範意識を醸成する取組みを実施する
- (3) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行き生徒相談機能を高める。
- (4) 正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
- (5) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
- (6) 生徒会活動・体育祭、文化祭、芸術祭、修学旅行等学校行事を通じ、自主自律の精神を深化させる。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす)

3. 地域から信頼される学校としての三島高校を促進・広報する

- (1) オール三島の体制で地域の小学校・中学校や地域協議会等と連携した事業を展開する。
- (2) 創立 50 周年に向けて、同窓会・後援会・PTA そして学校のオール三島の体制で準備を進める。
- (3) 多文化共生社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- (4) 高槻市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会的経験知の向上を図り、進路実現に寄与するキャリア教育にも繋げる。
- (5) 広報活動を充実させる。HP を更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。また、中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。

※学校教育自己診断において地域活動・国際理解教育等に関しての項目を現在の 70%を維持する。

4. グローバル人材の育成

- (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為国際交流を積極的に進める。世界の様々な国からの長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
- (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）をバランス良く育成することに努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検や TOEFL 等の資格取得を進めることに取り組む。
- (3) 各科目を充実強化し、科学的な見方、考え方、表現力を深め、高い志と夢を持ったグローバル人材を育成する。

※今年度以降も英語圏（オーストラリア）への海外語学研修を継続して実施し、可能ならばアジア圏への異文化理解研修も実施する。

5. 学校の組織力の向上と活性化

- (1) PDCA サイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。
ア 運営会議のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
ウ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。
エ 今後の社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。

※次期学習指導要領を踏まえ各科目の研究を深め、シラバスの更なる充実に努める。

6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- (1) 不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自ら学ぶ力をつける	<p>(1) 授業力の向上 ア 授業改善のための諸施策を行う</p> <p>イ 総合基礎（朝学）の実施</p> <p>ウ 家庭学習習慣の育成と定着</p> <p>エ 宿泊研修の実施と講習等の組織的実施</p>	<p>ア 「教務部」で、研究授業（タブレット型端末等 ICT 機器を取り入れた研究授業も含む）や教員相互の授業見学等の実施計画等を作り実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末等 ICT 機器を有効に使用することや、主体的・対話的で深い学びを推進することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力向上に資する。同時に可能な範囲で教材等の共有化を図る。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。また、結果に基づき各教科等でも改善策等を協議する。 <p>イ 学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努め学力向上に資する。</p> <p>ウ 「家庭学習記録表」を作成し、担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に学校あげて取り組む。</p> <p>エ 1年次に宿泊研修（勉強合宿）を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。 	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断関連項目肯定的回答で 80% を維持（平成 29 年度 80%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断関連項目肯定的回答 70%以上（平成 29 年度 77%） ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇 <p>イ 学力生活実態調査での結果の向上。英検・漢検等の資格取得者数と英検 IBA テストや確認テスト等での向上</p> <p>ウ 自宅学習をそれぞれの学年単位で設定した目標時間を達成する。</p> <p>エ 生徒アンケートを実施し、満足度 70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験において各科目とも全国平均との比較での向上 	
2 豊かな人間力をつける	<p>(1) 人間力をつける ア 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画</p> <p>イ 遅刻数の減少</p> <p>ウ 教育相談体制の充実</p> <p>エ 部活動の充実</p> <p>オ 生徒会活動・学校行事を通じ、自主自律の精神を深化させる</p>	<p>ア 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。</p> <p>イ 時間を順守することの大切さを再確認する。</p> <p>ウ 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かく丁寧でカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。 <p>エ 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p> <p>オ 生徒会活動・体育祭、文化祭、芸術祭、修学旅行などの学校行事を通して自主自律の精神を深化させる。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断関連項目肯定率回答 70%以上</p> <p>イ 前年度遅刻数の1割減</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断関連項目での肯定率 3%向上（平成 29 年度 56.9%）</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断関連項目肯定的回答 70%以上</p> <p>オ 生徒向け学校教育自己診断関連項目肯定的回答 80%以上を維持。（平成 29 年度 83.7%）</p>	
3 地域連携とグローバルリーダーの育成	<p>(1) 多文化共生社会に生きるグローバル人材育成のために ア 国際理解と人権に係る高槻市各機関との連携</p> <p>イ 大学等との連携</p> <p>ウ オール三島による支援</p> <p>(2) グローバル人材の育成</p> <p>(3) 広報活動の充実</p>	<p>(1)ア 多文化共生社会に生きる力を育成する為に、高槻市等との地域連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高槻市各部署、高槻市各機関との連携事業を引続き推進する。 <p>イ 関西大学・大阪教育大学との連携活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索 <p>ウ 生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立 50 周年に向けての取組を進める <p>(2) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。可能ならばアジア圏への異文化理解研修をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な国からの長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。 ・国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）をバランス良く育成することに努め、より英語の力を向上させる。 <p>(3) HP で生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。また、組織的に中学校訪問や学校説明会を開催して広報を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断関連項目・生徒アンケート実施し肯定的回答 70%以上</p> <p>イ 生徒アンケート実施し満足度 70%以上</p> <p>ウ 生徒アンケート実施し満足度 70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況による。 <p>(2) 海外語学研修・可能ならばアジア異文化理解研修をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で積極的に受け入れる。 ・英検校内実施とともに英検準 2 級以上の資格取得者数を 5%以上増やす。（平成 29 年度 185 名） <p>(3) HP を月に 5 回以上更新する。学校説明会参加者数等による。（平成 29 年 1446 人）</p>	

府立三島高等学校

<p>4 学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>(1) PDCA サイクルによる学校経営の確立 ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する イ 内規等の整理・改善 ウ 新学習指導要領の研究を行う エ 分掌・委員会等の活性化 オ 教職員の組織的・継続的な人材育成 カ 不祥事発生の未然防止を図る</p>	<p>ア 運営会議のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を引き続き行う。 ウ 新学習指導要領の研究を深め、本校にあった教育課程を考えるとともに、既存教科・科目のシラバスの更なる充実に努める。 エ 分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドすることで効率化を図る。 オ 初任者をはじめとする教職経験年数の少ない教職員はもちろん全教職員の資質・能力の向上の為に、校内研修の更なる充実に努め、日常的な OJT の推進に努める。 カ 教職員の服務規律の更なる徹底の為に、校内研修を実施し問題意識を共有する。</p>	<p>ア 運営会議のメンバーの学校経営計画実現に向けて寄与する度合いと教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 70%以上。 イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。 ウ 教科・科目のシラバスの充実に努める。 エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。 オ 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 60%以上 カ 校内研修において班別討議を継続実施する。</p>	
----------------------------	---	---	--	--